

# 東奥日報

2019年(平成31年)3月1日(金曜日) (12)



八食センターや館鼻朝市を再現したジオラマ

## ジオラマで魅力発信

### 八食センターや館鼻岸壁も

### 八工大生有志が製作

## 八戸

八戸市の魅力を発信しようと、八戸工業大学の学生有志による「八戸に特化した鉄道ジオラマ」の展示が2月23日、同市河原木の八

食センターで行われた。中心市街地や観光地を精巧に再現したジオラマに、多くの家族連れらが見入っていた。ジオラマを製作したのは「ぐっJOB2018」の

メンバー。学生が企画した調査や研究、地域貢献活動などに助成する同大の「学生チャレンジプロジェクト事業」を活用した。

ジオラマでは、八食センターや同市十三日町の商業ビル・チーノ、八戸港館鼻岸壁の朝市などを再現。市内各地を巡るようにレールを敷き、八戸線のレストラ列車「TOHOKU EMOTION（東北エモーション）」や「リゾートうみねこ」の模型も走る。

同チームの活動は数年前から始まり、ジオラマは先輩から後輩へと受け継がれている。チームリーダーの山崎北斗さん(19)は「機械工学科1年」は「ジオラマはほとんどが手作り。八戸の魅力発信につながればうれしい」と話した。ジオラマは今後、市内で行われる各種イベントなどで展示するという。(工藤俊介)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」